平成 28 年度　安曇野市中学生海外ホームステイ交流派遣事業

体験作文集

平成 29 年 3 月 18 日（土）から 3 月 27 日（月）

安曇野市・安曇野市教育委員会

目次

安曇野市中学生海外ホームステイ交流派遣事業概要		1
TRY する心	豊科南中学校 3年3組 石川 愛理	2
英語は伝えるための道具	豊科北中学校 3年3組 宮本 倭子	3
Try everything and give happiness！	穂高東中学校 3年1組 醍醐 葵	4
Challenge の大切さ	穂高東中学校 3年5組 松田 鳳羽	5
Thank you Australia	穂高西中学校 3年1組 内山 心乃	6
気持ちの大切さ	穂高西中学校 3年1組 茂原 和奏	7
TRY EVERYTHING	穂高西中学校 3年4組 渡部 日向子	8
ホームステイを通して学んだこと	三郷中学校 3年2組 池田 修悟	9
わさびの味は成長の味	三郷中学校 3年5組 伊藤 朱里	10
優しさいっぱいオーストラリア	三郷中学校 3年1組 二木 絵梨	11
海外ホームステイを経験して	堀金中学校 3年1組 曽根原 嵩大	12
知りたいから動くのだ	堀金中学校 3年1組 庭屋 あおい	13
Difference And Learning	堀金中学校 3年4組 堀内 咲希	14
輝いた10日間から学んだこと	明科中学校 3年1組 青木 里奈	15
～旅の記録～		16

安曇野市中学生海外ホームステイ交流派遣事業概要

１　目　　的

本事業は、グローバル化する国際社会に対応できる人材を育成するために、市内の中学生が海外ホームステイを行うことにより、国際感覚を養うと共に英会話能力の向上と、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成することを目的とします。

２　派 遣 先／参 加 者

オーストラリア　メルボルン

市内中学校７校の生徒 14 名

引率：安曇野市教育委員会 学校教育課職員 １名 中学校英語科教員 １名

３　日　　程

平成 29 年 3 月 18 日（土）から平成 29 年 3 月 27 日（月）までの 10 日間

月　日	日　程
3／18(土)	安曇野市役所　集合・出発式 安曇野市役所 ⇒ 成田国際空港 成田発カンタス QF80 便にてメルボルン国際空港へ
3／19(日)	メルボルン国際空港　着 市内観光（王立展示館、聖パトリック大聖堂、St Kilda Beach） ウェルカムパーティー(ビーチにてオーストラリア式ＢＢＱ) ホストファミリーと対面、各ホストファミリー宅へ移動
3／20(月) ～3／22(水)	Stella Maris Primary School(小学校)で通常授業に参加 全校生徒で大玉送りを実施 校長より各生徒へ修了証の授与
3／23(木)	Kilbreda College(中高学校)で交流 電車・トラムで移動　Queen Victoria Market を散策
3／24(金)	Wildlife Park でオーストリアの動物との触れ合いを体験 Sovereign Hill でゴールドラッシュ当時のオーストラリアの歴史や当時の街並み、生活を体験
3／25(土)	生徒は各自ホストファミリーと観光やショッピング
3／26(日)	ホテルに集合　ホストファミリーとのお別れ・記念撮影 電車で市内へ　観光　ヤラ川周辺で夕食 ホテルにて反省会
3／27(月)	ホテル発　メルボルン国際空港着 メルボルン国際空港発カンタス QF79 便にて成田国際空港へ 成田国際空港着　⇒　安曇野市役所

ＴＲＹする心

豊科南中学校　３年３組　石川　愛理

“やってみよう”これこそがオーストラリアで一番大切な気持ちでした。

中学１年生の頃から憧れていたホームステイを体験出来ること、それは私にとって、凄く嬉しいのと同時に「大丈夫だろうか…。」そんな気持ちも芽生える機会となりました。いざ外国人を目の前に会話しようとすると、躊躇してしまう私に 10 日間日本語の無い生活は、想像出来ませんでした。

しかし、今は英語の無い生活が考えられません。この 10 日間で日本とオーストラリアの相違点と共通点をたくさん見つける事ができ、互いの魅力を再発見しました。中でも滞在中に最も印象的だったのは、ホストスクールである、Stella Maris でのちょっとした出来事です。

私が休み時間に何人かの子供達と逆立ちをして遊んでいた時、普段はやらない様なことだったので、「You’ll try！」と言われても、思わず「No I can not」などと言い、やってもいないことを最初から諦めるような態度を示していました。でも何度も頼まれるうちに一度 Try してみました。すると、結果上手く出来なかったのにも関わらず、子供達は予想外の反応をして、拍手をしたり褒めたたえてくれたりしました。だから私は、今でも驚きと喜びの気持ちが生まれたのを忘れられません。この時ふと“オーストラリアだからなのか…。日本でやったら冷たい態度を受けるのだろうか…。”と考えさせられました。

私が日本にいて感じることは、何かをしている時よりもその［結果］を重要としている気がします。それに比べてここでは、結果よりもその為に［してみた事］を大切に捉えているのでは！？と思いました。“できる・できない　ではなく　やる・やらない　という気持ちが大切”ということです。この事に気付いてからは、ホストファミリーを含め出会う人へＴＲＹする行動で接してみました。例えばホストブラザーの得意なテニスを毎日一緒に練習する、夕飯を一人で作ってみる、出先では店員さんなど知らない人ともなるべく話してみるということです。些細な事ですが、普段の私ならきっと断るはずの事に進んで挑戦しました。そんな少しの心がけだけで周りの笑顔を増やせた気がしたし、そうであるなら、私達の住む日本も挑戦しやすい環境を創っていかなければいけないと思います。

また、不安だった自分の英語力も自然と聞き取れるようになり、ホストファミリーの家族の一員に入れたと感じるまで言語・国の壁を壊す事ができました。話すことがままならなくても、ある程度言っていることが分かれば表情にだしたり、単語で少しでも気持ちを表すだけで“繋がった”という喜びと自信が持てることを知りました。

だから日本にいる今、出会った人とたくさん話をして様々な意見から自分の選択肢を広げるきっかけを増やしたいという思いがあります。そして日本についてもよく理解し、日本のマナーの良さなど普段当たり前に感じていた素晴らしさを世界に発信出来る人になりたいです。「Ｉ’ll try！」いつでもこの言葉が言えるよう、英語のみならず今まで以上に学習に励んでこのホームステイが 10 年 20 年後の未来に少しでも役立てていければと思います。

英語は伝えるための道具

豊科北中学校　3年3組　宮本　倭子

英語を学校で勉強する「5教科のうちの1つ」なんて思っている人に私は言いたい。英語は「伝えるための道具である」ということを。

初日、飛行機の中で私はとてもわくわくしていて、不安はほとんど感じていませんでした。出発前の英会話レッスンと学校で学んだこと、ジェスチャーがあれば大丈夫と思っていたからです。

オーストラリアの生活で3日間、ホストブラザーと彼らが通う小学校で授業に出席させてもらいました。まず困ったことは先生が言っていることが全く理解できなかったことです。今やっていることがわからず最初はただ横に座っているだけでした。

私は学校のテストなどで英語を一番得意としています。しかし、学校の勉強の中で使う英語と実際に英語で生活することとは全く別のものでした。「英語は勉強ではなくあくまで言語なのだと」、痛感しました。そして私はこの時から英語で伝えるということに不安を抱きはじめました。

ホストファミリーの家で生活しているときも、どんな単語を使えばいいのかわからなくて、何度か伝えたいことを上手く理解してもらえないことがありました。それでも、何とか伝えようと頑張っていると、それに関係しそうな言葉を出してくれたり、これかなと思うものの画像を検索してくれたりして、一生懸命私の話を聞いてくれようとしてくれました。その時は本当に助かり、うれしかったのを覚えています。そして私が抱いた不安はなくなりました。なぜなら、最も大切なことは、文法や単語ではなく、伝えたいという気持ちだと気づいたからです。

英語に囲まれた世界で暮らすことは難しくもあり、簡単でもありました。なぜ簡単かというと、本気で理解しようとしてくれて、一生懸命聞き、私の言いたいことの手助けをしてくれた人達がいたからです。言葉は違っても、伝えようとする気持ち、理解しようとする気持ちがあればぎこちなくともそこに会話は成立します。

私は生きた英語を目の当たりにして、英語は勉強でなくコミュニケーションツール、伝えるための道具であり、自分自身の視野を広げてくれるものだと今回のホームステイで強く感じました。

今回の体験で学習ではなく「伝えるための道具としての英語」を学ぶことができ、今後さらに英語でのコミュニケーション能力を高めて、外国へ行きたいと強く思いました。

そして今回の体験をしたことで自分の夢に一歩近づけたような気がします。ありがとうございました。

Try everything and give happiness！

穂高東中学校　3年1組　醍醐　葵

“たったの”10 日間。されど、内容は日本での何十日分、何百日分にもなるほど長く、濃く感じられる 10 日間でした。

英語のプリントを握り締め、希望に胸を躍らせて降り立ったオーストラリア。Welcome パーティーが近づくにつれて寒気がしてきました。突然寒気が襲ってきて、『言いたいことが伝わらなかったら？ホストファミリーにあきれられたら？何か自分の成長する糧を身に付けて帰れる？』自分でも訳が分からないほど不安な感情が押し寄せてきました。そんな中、友達のホストファミリーがどんどんやってきます。私は何とか気持ちを落ち着けようと、友達のホストブラザーとクリケットをしました。体がガチガチになりながらも、自分のホストファミリーと関わる練習だと思い、挑戦してみました。日本の野球のようなスポーツで、私は空振りばかりしていました。『恥ずかしい』と思いました。

私は、人の目ばかり気にしていたんです。けれど前を向くと、友達のホストブラザーは“Nice Try！”と言って、満面の笑みで“Let’s try again！”と褒めてくれました。また、ホストファミリー宅でトランポリンをした時も、ホストシスター・ブラザーが背で跳ねて立ち上がる技をやっていて、挑戦したけれどなかなか出来ませんでした。その時も恥ずかしいと思っていた私に 2 人は「あとは起き上がるコツだけ！」と、真剣にアドバイスをくれました。人の失敗を笑わないんです。ただ、誰かの幸せは皆で分け合い、皆で笑います。

人の幸せは自分の幸せ。そんな心の人たちと生活する中で、挑戦することに何だか、自信を感じられるようになりました。自分を発信できるようになりました。上手く伝わる自信が出た訳ではなく、『伝えよう』と、自分の中で自分を臆病にしていた何かがはじけ飛びました。それはきっと“周りの目を気にする自分”だと思います。その気持ちが、人の幸せを願うという心だけでこんなにもあっけなく流れて消えて、私らしく、私の道に挑戦しようと思わせてくれました。

この時を経て、私は沢山の人に伝えたいことができました。“人の幸せを願うことは、皆を幸せにする”“挑戦は自分を持つための糧となる”ということです。人の幸せを願うとまず、自らが愛を感じ、温かい人になれます。そして挑戦は、自分を信じ向き合うことに通じます。私はこの“心”に触れ、温かく満たされた気持ちになりました。これから私はこの心を大切にし、人と幸せを分け合える人になります。また、今回のステイで夢は世界中どこででも叶えられると思いました。将来は海外も視野に入れ、人を幸せにする仕事をしたいです。

国境を越え協力下さった方々、新しい私を、心を、見つけることが出来ました。本当にありがとうございました。

Ｃｈａｌｌｅｎｇｅの大切さ

穂高東中学校　３年５組　松田　鳳羽

オーストラリアへのホームステイは僕にとって大きなチャレンジでした。異国の地でその場所の家庭に入って生活する事はとても不安がありましたが、自分の英会話能力を向上させるチャンスとも取ることができました。実際にメルボルンへ着き、町の風景が英語表記に全て変わり「いよいよだ！」という気持ちにさせられました。ウェルカムパーティーの場所に着いた時は今までにない緊張に襲われましたが、ホストファミリーと会い、会話を交わすとその緊張は一気に吹き飛び、不安は希望に変わりました。そして、英語だけの日常が始まりました。

僕はこのステイ中にチャレンジしなければいけないと思った事があります。それは「自ら話す」という事です。相手から話された事に対して返す事は簡単です。英語力を高める為に僕は自ら話す事に意味があると考えました。「靴は脱いだ方が良いですか？」「洗濯物はどうしたら良いですか？」など、教えてもらう前に家庭のルールを質問しました。自分が言った事が相手に伝わると大きな達成感を得る事ができました。また、会話を簡単に終わらせるのではなく、会話のラリーが多くつながるように頑張りました。会話が続くと「自分は話せる」という自信にもなりました。ホストファミリーは僕をお客様扱いするのではなく、本当の家族のように接してくれました。嬉しかったです。

このホームステイで日本との違いに驚かされた事が３つあります。

１つ目はオーストラリアの学校では１人１台パソコンを持っていて宿題はパソコンやタブレットの中に入っています。子ども達は幼い頃からパソコンを扱う事が日常化され、誰もが簡単にパソコンを使用しています。それは将来のビジネスにも役に立つ事なので、日本でも取り入れてほしいと思いました。

２つ目はオーストラリアの人は失敗を馬鹿にしません。例えばサッカーでシュートを外すと日本では「そこは決めようよ」と言われがちなのに対し、オーストラリアでは「ナイストライ！」と声をかけてくれます。結果的に失敗した事なのにチャレンジした事を褒めてくれます。だから失敗を恐れずに次もチャレンジする事ができます。相手を尊重する事の大切さを改めて感じました。

３つ目はホストスクールの授業中の発言の多さです。授業中、常に１人は必ず手をあげています。自分をアピールする力がつき、発言をする事によって授業の内容も濃いものになります。チャレンジする事の大切さを教えてくれた光景でした。

あっという間に時は過ぎ、帰国となりました。成田空港へ着くと僕は人にぶつかってしまいました。その時に出た言葉は「Sorry」でした。しかし相手は日本人で「ごめんなさい」と返ってきました。とっさに「Sorry」が出てきたという事はそれだけ僕はオーストラリアになじんでいたのだなと思いました。

今回のホームステイで、僕は想像していた以上に沢山の大事な事を学ばさせていただきました。僕がホームステイに行く為に携わっていただいた全ての人に感謝したいです。本当にありがとうございました。これから僕が経験した事をしっかり発信していきたいと思います。

Thank you Australia

穂高西中学校　3年1組　内山　心乃

ホストファミリーと本当の家族のように過ごし、ステラマリス小学校のyear1pBの子供たちと過ごした数日間で、私が学んだ事は人々の温かさです。

ホストファミリーと初めて会った時、笑顔と優しいハグで私を迎えてくれました。その瞬間、私が抱いていた不安は一気に消えました。そしてホストファミリーは、毎日様々なことを経験させてくれて、毎日が驚きと発見の日々でした。

メルボルンにいた10日間、オールイングリッシュで過ごしました。ホストファミリーはゆっくり話してくれて、とても助かりました。

ホストブラザーのHarvyとDarcyはゆっくりメルボルンの事について教えてくれて、とても嬉しかったです。ホストマザー・ファザーは私に我が子のように接してくれて、感動しました。

ステラマリスの子供達は、みんな優しくそして個性あふれる学校でした。

「心乃、次は私の隣に来て」「心乃、～は日本語で何て言うの？」とみんなが言ってくれて、オージーの優しさを感じました。

そして床に座って、自由に発言する子供達を見て、個性と人間性を尊重する教育が感じられました。いつも周りの目を気にして生きていた自分にとって、とても大切なことに思えました。そして家でもホストマザーが勉強について言わないことにとても驚きました。日本と違い勉強だけでなく人間性を尊重するから、温かい人間性が生まれるのかなと思いました。そして、ある女の子が最終日に「I love Kokono」と書いた手紙とイースターエッグをくれました。その時、私が伝えたかった事は伝わったんだなと感じました。日本のこと、安曇野のことを沢山伝えてきましたが、オーストラリアに来て良かったと感じました。そして、ある観光地で私が砂金の取り方がわからず、おどおどしていると、ある中国人観光客が英語で優しく教えてくれました。英語は万国共通。世界中の人と繋がれることが分かりました。英語と世界がもっと好きになりました。

そして、最終日ホストファミリーが「心乃と離れたくない」と言ってくれたとき涙をこらえることができませんでした。様々な思い出がプレイバックされて、出来るものならずっとオーストラリアに居たかったです。私が泣きやむまでずっとホストファミリーはハグしていてくれました。このご家庭にホームステイ出来て本当に良かったと心から思えました。

私には夢ができました。それは、通訳になり、流暢に英語が喋れる様になってオーストラリアに戻ってくることです。ホストファミリーも応援してくれているこの夢を実現させ、安曇野、世界に誇れる人間になります。

この様な貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

気持ちの大切さ

穂高西中学校　３年１組　茂原　和奏

私は、このホームステイを通して「伝えようと思う気持ちの大切さ」を学びました。

出発前は、楽しみという気持ちもありましたが、それよりも不安でいっぱいでとても緊張していました。しかし、空港から出た瞬間、緊張よりも「待ちに待ったホームステイ！！ずっと来たかった場所に自分が立っている！！」と、これから始まるたくさんのことが楽しみでしょうがなく、それまで感じたことがないくらいのドキドキしたのを覚えています。

私には、「積極的に話しかけ自分の英語がどこまで通じるのかを試したい」「さらに、英語力・コミュニケーション力を高めたい」という目標がありました。やはり初めは聞き取ることが難しく、簡単な単語しか出てこない、笑ってごまかそうとしてしまうといったことばかりでした。しかし、聞き取ることに慣れてくるとジェスチャーなども使いながらだんだんとスムーズな会話が出来るようになりました。相手に自分の思いが伝わる喜びと同時に「私の英語はまだまだだけど上手い下手よりも話そうとする気持ちが大切なんだ」と気づきました。それに気づいてからはとにかく自分から話しかけたり、自信を持って取り組めることが多くなりました。

このように変わることが出来たのは、ホストファミリーやオーストリアに住む方々のおかげです。何度も何度も分かるまで話してくれたり、私が話す時に手伝ってくれたり、多くの場面で助けていただきました。初日からわざわざ遠回りをして町の中を案内してくれたり、たくさん遊びに誘ってくれたり、多くの方々が優しく当たり前のように振る舞ってくれたおかげで、私も相手に対して積極的に関わっていこうという気持ちになれました。

また、ホームステイ中、私は多くの初めての発見・体験をしました。例えば、町の中で全く知らない人と立ち話をしたこと、みんなで床に座って授業を受けたこと、授業で保護者の方が子供達に教えている場面があったこと、全員が挙手をしている活発で自由な姿を見たこと。他にも日本との違いが多く、そのたびに驚きました。それと同時に、日本の良さも改めて感じることが出来ました。

あっという間に終わってしまったホームステイですが、この経験が私を変えてくれました。私には通訳になる夢があります。今回学んだことを大切にしながら、夢に向かって努力していきたいです。

TRY EVERYTHING

穂高西中学校　3年4組　渡部　日向子

私は海外に行くのが初めてで、言葉も環境も違うオーストラリアという異国の地でホームステイすることに不安がありました。しかし、自分の五感というフィルターを通して、見て、聞いて、話して、食べて、感じて、たくさんの事を経験することへの期待のほうが大きかったです。10日間という短い時間の中、たくさんの日本との「違い」を発見することができました。

ホストシスター・ブラザーと一緒に通った小学校では、日本とは全く違う教育に触れることができました。日本ではきちんと机に向かい、ノートをとって先生の話を聞くのが一般的な授業です。しかし、オーストラリアの小学校では、先生と子供たちが会話をしているような感じで、先生の投げかけた問いについてみんなで話し合い、考えを深めていくスタイルでした。どんな小さなことや「えっ、そんなこと！」というような内容から話が膨らみ、コミュニケーションをそれぞれが多く取り合う授業で、自然と勉強が楽しく感じられるような、とても良い雰囲気でした。

人の優しさや温かさもたくさん感じることができました。ホストファミリーは、どんな小さなことでもすぐにほめてくれたり、家族の一員として、変な気を遣わず自然と接してくれました。また、「Thank you」や「Sorry」などの些細なことにも、「That's OK!」などの返答を必ずしてくれました。私たちも、とても見習いたいことだと思います。

一番印象に残っていることは、どんな事にでも挑戦してみる姿です。安曇野を発つとき、三郷中学校の校長先生から「日本には失敗を恐れる、恥の文化がありますが、外国はチャレンジを重んじる文化です。どんどんチャレンジしてきてください！」という言葉を贈っていただきました。オーストラリアのホストスクールに行ってみると、どの教室にも「TRY EVERYTHING」 という紙が貼られていました。オーストラリアでは、できるかできないかは関係なく挑戦することが良いとされ、たとえ失敗したとしても「Nice try!」と励まし合ったり、「どんな事でもやってみる」ということを大事にしていると感じました。私は今まで、できない事から逃げたり、失敗を恐れて挑戦してこなかった場面がたくさんありました。これからはこの貴重な経験を生かし、「TRY　EVERYTHING 」の精神で、新たな自分へと変わっていきたいと思います。

ホームステイを通して学んだこと

三郷中学校　３年２組　池田　修悟

ホストファミリーの人たちと会って１番初めに感じたことは、「親しみやすい」ということでした。僕が緊張して何を話そうか困っていると優しく話しかけてきてくれて、最初からとてもいい雰囲気でホームステイを始めることができました。また、文法がよく分からないようなときも単語を言うと分かってくれたので楽しく会話をすることができました。

僕が出発激励式で掲げた３つの目標について、まず、１つ目の「日本とオーストラリアの違いを知る」ことについては、日本とオーストラリアの多くの違いを知ることができたので良かったと思います。例えば、学校です。現地の学校に行き授業に参加させていただいた時に１人１台あるパソコンを使っていたり、授業中に水を自由に飲んでいたりしていてとても驚きました。他にも、街に出るとお店の店員さんが「調子はどう？」などと話しかけてきてくれて「とてもフレンドリーだな」と驚きました。また、安曇野ではあまり見かけないストリートミュージシャンやストリートアーティストの方がたくさんいて新鮮な感じがしました。

２つ目の「事前学習で学んだ表現を使って、多くの人と会話する」ことはできましたが、ですが、まだ完璧に使いこなすことはできていないので、これからも英語の学習を頑張りたいです。また、学んだ表現以外にも部活でとりくんでいるサッカーを通して、現地の子供たちとコミュニケーションを取ることもできたので良かったです。

３つ目の「日本、安曇野の事をオーストラリアの人達に知ってもらう」ことについては、ホストファミリーの人たちに安曇野のワサビを食べてもらったり、安曇野の自然についての写真集をもっていったりしました。ワサビは「とてもおいしい」といってもらえて自分のことのように嬉しく感じました。また、写真集で安曇野の自然について紹介するとワサビ田の写真のページで「これは何？」と聞かれ「ワサビの畑です」と答えるととても驚いていました。他にも、現地の中学校で「日本といえば何？」と質問すると「桜」とかえってきたり、「日本は綺麗なイメージがある」というようなことをいってくれたりして、日本っていいところだなと改めて感じました。

僕は、このホームステイを通して挑戦することの大切さを学びました。英語は難しいし、その英語を使ってコミュニケーションを取ることはもっと難しいことでした。しかし、だからといって何にも話さないというわけにはいきません。そこで思い切って挑戦し、なにか話してみるとそこからどんどん話題が生まれてきて会話が弾んだこともありました。これからは、今回学んだ挑戦することの大切さを忘れずに日々の生活を送っていきたいです。

わさびの味は成長の味

三郷中学校　３年５組　伊藤　朱里

「分からない、どうしよう。」

ホストファミリーに会った初日、挨拶は通じたのに日常会話が続かないのです。行く前から自分の英語力には不安がありましたが、案の定、全く通じませんでした。相手の言っていることが分からず、自分の伝えたい事も伝えられず、断り方さえも分からないのです。この先 10 日間どうしようと泣けてきました。

翌朝、「No thank you」と口にしているホストシスターの真似をして、断りたい時は「No thank you」と言って、自分の意思を伝えることが出来ました。そこで私は「伝える」という事を意識し、自分の知っている言葉を最大限に使ってみるようにしました。それからは、少しずつ会話が出来るようになり、言葉の壁を越えられたような気がしました。

また、ホストファミリーからは、とても家族愛が感じられました。ホストマザーはホストシスターの話を親身に聞きすごく褒めていましたし、ホストファーザーは家族の時間をとても大切にしていました。そして私に対しても「My daughter」と呼びかけ本当の娘のように接してくれました。

ステラマリス小学校では、私が練習してきた英語での自己紹介を行うと、何回も拍手し、たくさん褒めてくれました。発表出来て良かったなと嬉しく思いました。

また、誰かが何かに挑戦したら、そのことに対してすぐに褒めていました。授業中は全員挙手をして質問や発言をしようとしていました。オーストラリアでは一人一人の「個性を尊重」するので、みんなが進んで発言したり、色々な事に挑戦出来たりするのだなと思いました。

その背景にはオーストラリアの国民性があります。オーストラリアには様々な人種の方がいて、それぞれを尊重しあう多文化社会を築こうとしています。その精神が国民にもあるのだと思いました。

ステラマリスの生徒達はもちろん、お店の店員さんも、出会った人全てがフレンドリーなのには驚かされました。おかげで不安な気持ちがすごく和らぎました。

でも、少し残念に思う点もありました。食事の時、音を立てて食べたり、ボロボロと床に落としたりしていました。文化の違いを学ぶことでオーストラリアの良い所、日本の良い所が見えてきました。

本当に充実した 10 日間だったと言えます。今回のホームステイで私は沢山の人の温かさに触れることができ、その温かさに包まれながら自分も成長することが出来ました。色々な人からもらった温かさを今度は自分が返せる人間になりたいです。学んだり感じた事を大切にし、これからに生かしていきたいです。

最終日の夜、私は安曇野市がホストファミリーに贈ったワサビを食べました。実は今までワサビが苦手だったのですが、「美味しい！」と感じました。そんな事からも自分が成長したような気がしました。

優しさいっぱいオーストラリア

三郷中学校　３年１組　二木　絵梨

あなたは知らない人と目が合った時どんな反応をしますか？私の経験ではすぐにそらす人が多いと思います。でもオーストラリアの人たちは必ずと言ってもいいほど、みんな笑顔で見つめ返してくれます。その笑顔を見るだけで何かもう赤の他人を超えたような気がしました。第一印象が決まる最初のアイコンタクトがいい印象だったから、話しかけやすく、私はオーストラリア人を見てフレンドリーだと思ったのかもしれません。最初のアイコンタクトを「笑顔」にするのはすごく得なことだと思うので、私も真似したいなと思いました。

次に伝えようとする心の大切さを知りました。「伝えようとする心＝コミュニケーションをとろうとする心」、その心がないとき、そこに会話がなくなるんだと思いました。だから、ホームステイで一番大切な事は、コミュニケーションをとろうとする心だと思います。

私がこのホームステイで一番学んだ事は、オーストラリアの人々の「みんなで失敗をほめよう」という意識でした。例えば、私が倒立をしようとして失敗したとき、アメリ（ホストシスター）やその友達がかけ寄ってきて「大丈夫」と声をかけてくれました。ここまでは日本でもよく見かける光景ですよね。でも、その後オーストラリアの人たちはみんな「Nice challenge」とか「You are great」という言葉をかけてくれて失敗したのに、なぜか恥ずかしくなくて次はできるんじゃないかという自信さえ生まれました。そして、また挑戦したいと思いました。簡単に「失敗を恐れずに挑戦しろ」とよく言いますが失敗を恐れる心は、周りの人が作り出しているんだなと思いました。そこで私は、これからは挑戦した友達を失敗・成功にかかわらずほめてあげたいと思います。この作文を最後まで読んでくれたあなたが、もし少しでも私の考えに賛同してくれるのなら、ぜひ周りで失敗した人に対して、大きな愛で受けとめて、その人のことを救ってあげてください。

今回のホームステイで、改めて世界は広いなと思いました。文化の違いや感じたことをたくさんの人に伝えて、オーストラリアの事を知ってもらうとともに日本の良さも改めて感じてもらいたいです。また、将来もう一度海外に行って日本と海外をつなげるような仕事がしたいです。最高の体験を本当にありがとうございました。

海外ホームステイを経験して

堀金中学校　3年1組　曽根原　嵩大

僕は今年オーストラリアのメルボルンへホームステイに行ってきました。自分の持っている英語力がどこまで伝わるかということがとても楽しみでした。オーストラリアに着いて、待っていてくれたのはとても明るい皆さんでした。

Aimee さんと Paul さんや Tyra、Ayden、Chloe の 3 人の子供たちが僕を待っていてくれました。オーストラリアはすべてが別世界のようでした。飛行機の中からの景色は平たい台地が広がっていて赤っぽい土の色をしていました。「あぁ、ここは日本じゃないな」と友達は言いました。飛行機から降りて車に乗っているときも生えている木が日本のものとは違っていました。そんな世界に本当に感動して、僕は帰りたくないと思いました。

オーストラリアの食べ物にも驚きました。ミートパイという食べ物は聞いたり、本で読んだりしたことはあったけれど今まで知らなくて、「どんなものなんだろう。」と思っていました。食べたときは美味しくて、また食べてみたいなと思いました。

向こうに着いたとき、みんながみんな英語を話していて、僕にとってはそれが一番の新しい世界でした。そしていざ英語を話してみると伝わらない部分もたくさんありました。

Google の翻訳機能にも頼りました。でも自分から英語を使わないとどうにもなりません。僕は、今までいろいろと覚えてきたすべてのものをフル活用して挑みました。

Paul さんと飼っていた犬と散歩をしていた時のことです。Paul さんに何かを聞かれましたがまったく意味が分からず僕は「えっ？」というように聞き返したりしましたが、結局意味は通じず、Paul さんは「まぁいいや」というように肩をすくめました。そういう気まずくなるようなこともたまにはありましたが、すぐに忘れて大いに楽しむことができました。

アイスクリームやハンバーガーを一緒に食べたのは本当にいい思い出でした。

また、こんな発見もありました。何かを聞き返すときどんな言葉を使うのかです。

教科書では Pardon?” という言葉が使われていました。しかし、Jason 先生が言うには “Pardon?” は古い言い方らしく “I’m sorry?” と言うように言われました。けれど実際、僕のホストファミリーは “Pardon?” を使っていました。しかし、学校などでは先生が “Sorry?” という言葉を使っているのをよく耳にしました。オーストラリア英語はアメリカ英語と少し異なっているのかな？とも思いました。授業の中でそういったことを聞き取っていたわけですが、先生が話していた授業の内容は、ほとんどわからず聞き流していた部分も多くありました。

お昼の休みの時、みんなでサッカーをして遊びました。僕も一点決めることができました。同じ日本の友達は何本もシュートを決めてその都度みんなで歓声を上げていました。

僕にとってはすべてが貴重な体験でした。でも、オーストラリアは海の向こうで簡単に行くことはできません。今度いつ行けるかもわかりません。オーストラリアに行く前に旅行雑誌を読んでいて「あぁ、僕はここに行くのか。楽しみだな。」と思っていました。それがもうあっという間に終わってしまいました。またいつかオーストラリアの広大な大地に一歩足を踏み入れることができることを願っています。

知りたいから動くのだ

堀金中学校　3年1組　庭屋　あおい

オーストラリアでの 10 日間。私はホームステイを通して数え切れないほど沢山の経験を積んでくることができました。

渡航前、私は海外での生活を楽しみにしていた反面、ホストファミリーとうまくコミュニケーションをとっていけるかという心配がありました。しかしホストファミリーは、初めて会った時から“Hi!　Aoi!”と明るく話しかけてくれました。だから自然と緊張がほどけ、心配も消えていきました。私は初日から 4 人のホストファミリーが大好きになりました。

私はオーストラリアでお気に入りの場所を 2 ヶ所見つけました。それはホストファミリー宅と Sam、Roos が通っている小学校、Stella Maris です。Stella Maris には積極的な子供たちが大勢いました。例えば、私にメッセージカードを作ってくれる子がいたり、「こんにちは」「おはようございます」と日本語であいさつしてくれる子も多くいて、みんな明るくてチャレンジャーだなと思いました。生徒は授業にも積極的です。発言をする場では先生が当てきれないほど手が挙がっていました。一人一人が、熱く授業へ参加する姿には驚きました。そして教室には「TRY　EVERYTHING」と大きく掲げられていました。この「何事にも挑戦していこう！」という意気込みから、自然と生徒たちに共通する積極的な行動がうまれているように感じました。私は活気に溢れた Stella Maris が大好きになりました。

そして私は、「伝わるまで諦めない。理解してもらえるまで諦めない。」と出発前に決意したことをやりきってくることができました。会話を発展させるため“Yes”、“No”に一言付け足すことを意識しました。Sam に「彼女はあおいと同じ学校なの？」と聞かれた時には「うん。私と同じ学校からは 3 人きているよ。」と伝えることができました。

オーストラリアでの生活は、見るもの、やること全てが初体験ばかりです。私は気になることがあったら「あれは何？」「それはなぜ？」と多くの質問をし、理解していきました。とにかく知りたい、知識を身につけて帰りたいと思ったからです。その時私は、「Stella Maris の好奇心旺盛な子供たちと重なった姿になることができた」と思いました。これからも色んな物事に関心を持ち、視野の広い自分でありたいです。

私は将来キャビンアテンダントになりたいと思っています。オーストラリアでのホームステイは私の将来への大きな一歩となりました。知りたい、という好奇心によって行動した結果、生まれた沢山の経験は、私の自信、そして力になっていくのです。

Difference And Learning

堀金中学校　3年4組　堀内　咲希

日本にいるだけでは分かることのない世界の広さ、人々の温かさ。ここには書ききれないほどの日本との違いを学び、体験しました。そして、自分の在り方について考えさせられるきっかけとなりました。大げさではなく、本当に今までで一番濃く充実した 10 日間となりました。

日本とオーストラリアでは本当にたくさんの違いがありました。その中でも、私は人々のフレンドリーさに大きな違いを見つけました。日本人の多くは見知らぬ人と目が合っても目をそらす人が多いと思います。しかし、オーストラリアの人々は目が合うとニコッと笑ってくれます。私はこの違いのおかげで緊張がやわらいだのも事実です。また、店員の方は誰でも「How are you going?」と言って明るく話しかけてくれたり、お客さんとおしゃべりをしたりしていました。「仕事だからやっている」という感じが全くなくて、すごく良い環境だなと思いました。他にも、私のホストファザーの Jason は、初めてあった人と自己紹介をして長時間話をしていることもあり、その話し相手の人の中には私が日本人だとわかると「こんにちは。」と声をかけてくれる人もいました。想像以上にオーストラリアの人々はフレンドリーで驚きました。

そして、私が 10 日間で一番学んだことは、考え方の違いです。ホストスクールの子たちは、「自分の意見を言いたい！」という感じで沢山挙手をしていて、その答えがたとえ違っていてもそれを恥ずかしいと思うことも、思わせる環境もありませんでした。また、発言をするということは、そのことについてしっかりと考え、自分の意見を持っているということです。日本とはやはり違うなと思いました。

たくさん学び、体験することのできた日々でしたが、未熟な英語力の私には大変なことも苦しいことも沢山ありました。その中 10 日間を楽しく過ごせたのは、温かく、優しく、本当の家族のように接してくれた Jezewski 家のおかげです。沢山の経験をさせてくれたり、教えてくれたり、私のおかしな文法も全て理解してくれて、また教えてくれるだけではなく、自分達も日本について知ろうとしていて沢山きいてきてくれました。

こんな素晴らしい家族に出会えたのも、学ぶことができたのも、これからの私の人生に必要だからだと思います。また、海外に行くということは、日本についても知識が必要だと肌身をもって感じました。さらに勉強に励み、英語力も磨き、何事にも興味を持ち、伝えることを意識して生活していきたいです。必ず、もう一度メルボルンへ行き、Jezewski 家と会えるよう、そして世界に貢献できる大人となるよう頑張っていきたいです。

輝いた 10 日間から学んだこと

明科中学校　3 年 1 組　青木　里奈

私がオーストラリアでのホームステイを希望した理由は 3 つあります。昨年ホームステイに行かれた先輩の話を聞き、「素晴らしい環境で輝いた時間を過ごすことができる」と感じたから。「海外の同年代の人々が自分の将来に向けどのように考えているのか」知りたかったから。そして「学校・スポーツをとおして友達と喜びを共有できたらいいな」と思ったからです。

出発当日、成田空港で友達と「この飛行機に乗ったらオーストラリアへ行くんだね、信じられないね」と大きな期待と少しの不安な気持ちで話し、なんだか不思議な気がしました。

メルボルンに到着し、ホストファミリーに会うまで、英語で話ができるのかとても不安でした。実際会ってみると、とてもフレンドリーですぐに緊張がほぐれました。ホストマザーは常に優しく話しかけてくれ、好きな食べ物とか苦手なものとか気を配ってくれました。私はあまり苦手なものは無いので、いろいろ用意してくれた食事を楽しむことができました。ホストファーザーは見た目少し怖いかなと思ったのですが、困っていると優しく助けてくれました。トム、ベン、そしてアビーはとてもフレンドリーで、いろいろ話しかけてくれ、すぐに仲良く遊ぶことができました。翌日から学校が終わるとスポーツ施設に行ったり海に行ったり、思いっきり体を動かしたり、笑いながら遊んだりしました。一緒に行動していると、英語がうまくしゃべることができなくても気持ちで通じ合え、会話が自然とできた気がします。

小・中学校の雰囲気は、先生も生徒も皆が家族のように接していてとても家庭的でした。私たちが困っていると分かりやすいワードで助けてくれ、相手が喜ぶことを進んで行うなど、とても気持ちよく接してくれました。また、授業では一つのことに対したくさんの意見が出る、できなくても周りの友達が「OK！ Good！」と言ってくれる、自分に自信を持って行動している、何事にも興味津々である姿勢など、見習わなければと強く感じ勉強になりました。日本の学校と異なり、とても開放的で生徒の自主性を大事にしているところがとても印象的でした。

休日にホストファミリーにメルボルンの街に連れて行ってもらったとき、歩いている人がとても楽しそうに見え、知らない人とも笑顔で話すことができました。日本でも同じことは言えると思いますが、国や文化が違えば感じ方も少し違ってくると身をもって感じることができました。

ホストファミリーの方々に本当には感謝しています。最後の日に別れることがとても辛かったです。今でも近況報告などメールで連絡を取り合っています。いつか必ず日本に招き、安曇野を紹介したいと考えています。

最後に、この最高な環境を提供・サポートしてくださった方々に感謝します。私は将来の目標である考古学者になって世界中を巡り、この貴重な経験を活かし、故郷の安曇野市の発展に貢献できるよう頑張ります。

～旅の記録～

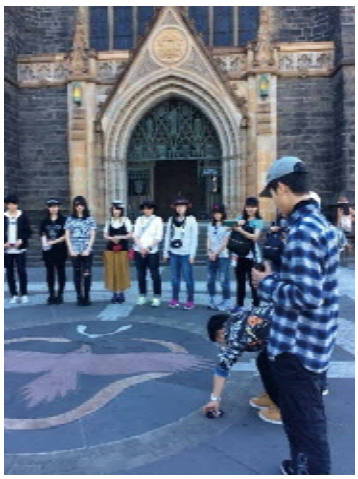
出発式の後、教育委員会、各学校長、保護者の方々、大勢のお見送りを頂き、期待に胸を膨らませ成田空港へと向かいました。

【メルボルン市内観光①】

メルボルン国際空港到着後、住みやすい街ランキング「６年連続世界一位」に選ばれているメルボルン市内観光。車窓から見える英国色が残る重厚な建物、モダンな高層ビルが混在したきれいな街並みを見て、みんな感動していました。

ロイヤルエキシビジョン・ビルディング（王立展示館）

セントキルダ・ビーチ



セントパトリック教会

【ウェルカムパーティ】

会う前はみんな緊張気味でしたが、それぞれのホストファミリーに歓迎され、お互いすぐに打ち解ける事ができました。ホストファミリーとクリケットをしたり、海辺でボールゲームをしたり、初日から家族の一員になったようです。

【ホストスクール Stella Maris Primary School】

ホストスクールのステラマリス小学校へ３日間就学しました。ステラマリスの子供達は好奇心いっぱいで、みんなフレンドリー。どんどん話しかけて来るので、安曇野市の生徒達にとって“Best Teacher”でした。

日本と違う参加型授業を体験し、電子黒板等の ICT 機器を完備した教室で学び、充実した就学体験となりました。

Japanese Day の様子

【大玉送り】

大玉送りで日本の文化を紹介しました。日本の運動会は単にスポーツに親しむのではなく協調性や責任感、連帯感を育むといった事をステラマリスの子供達に伝えました。

ステラの子供達は生まれて初めて見る大玉に大興奮でした。

【ホストファミリー】

ホストファミリーと過ごした時間は異文化体験、英語力向上、感情や考え方の違い、コミュニケーション力向上など、たくさんの体験から得たものは一生の宝となり、より絆を深めた時間となりました。

宮本倭子さんとホストファミリー

石川愛理さんとホストファミリー

内山心乃さんとホストファミリー

青木里奈さんとホストファミリー

醍醐葵さんとホストファミリー

庭屋あおいさんとホストファミリー

二木絵梨さんとホストファミリー

曽根原嵩大さんとホストファミリー

茂原和奏さんとホストファミリー

堀内咲希さんとホストファミリー

池田修悟さんとホストファミリー

松田鳳羽さんとホストファミリー

伊藤朱里さんとホストファミリー

渡部日向子さんとホストファミリー

【訪問校　Kilbreda College キルブレダカレッジ】

キルブレダカレッジはセカンダリースクールで、日本の中学高校にあたります。同年代の生徒達との交流では、会話が弾み予定にはなかったダンスを披露するなど大いに盛り上がりました。

リセスタイム

お互いにたくさんの質問をして、日本とオーストラリアの中学生の違いを知る事ができました。

Year7（中学校１年生）と記念撮影

【メルボルン市内観光②】

電車でメルボルン市内まで移動し、美しい街並みを眺めながらトラムに乗り、メルボルンの台所と呼ばれるビクトリアマーケット等へ行きました。

フリンダースストリート駅

ビクトリアマーケット

【Day Trip　Wildlife Park（ワイルドライフパーク）　& Sovereign Hill（ソヴリンヒル）】

オーストラリア固有の動物達を間近で見たり、触ったりする事ができました。

ゴールドラッシュ時の町並みを再現したテーマパークで、砂金採りやロウソク作り等の体験をしました。

生徒達は積極的に英語でコミュニケーションを取り、いろんな体験をしていました。

【ホストファミリーとのお別れ】

生徒達はそれぞれ言葉の壁に突き当たり、悔しい思いや歯がゆい思いをすることもありながらも、それ以上に自分の思いや気持ちが通じた喜びをたくさん経験しました。

優しかったホストファミリー達とのお別れはとても悲しくつらい様子でしたが、またの再会を約束してお別れしました。

Thank you Australia

[St Kilda Beach]